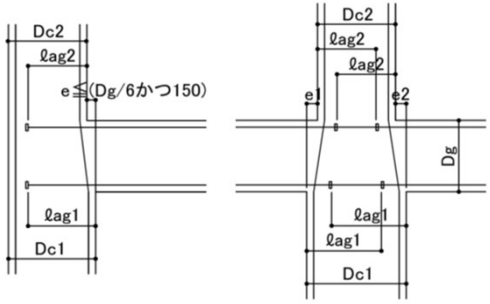
SABTEC機械式定着工法RC構造設計指針(2026年)13.2節に準拠した接合部配筋仕様

①

13.2節(1) 柱主筋を曲げ通し筋とする柱絞り接合部

(注) 梁主筋定着起点:上下階柱面



(ト形接合部)　(十字形接合部)

【e≦Dg/6の柱主筋曲げ通しト形接合部①-1】

①-1 e≦Dg/6の柱絞りト形接合部配筋仕様

1) 上端筋定着長さℓag2≧0.75Dc2
　下端筋定着長さℓag1≧0.75Dc1

2) ト形接合部の接合部有効せいDjh=(ℓag1+ ℓag2)/2
　: SABTEC指針13.2節(1)

解表13.1上階柱最小せいLao

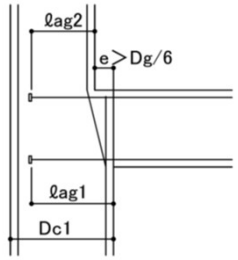
Fc (N/mm²)	SD 345	SD 390	SD 490
21	18db	22db	—
24～27	16db	19db	24db
30～36		16db	18db
39～45			16db
48～60			

(注) 上表のLao＝解表8.1(b)の必要定着長さℓao+SABTEC指針8.1節(3)の背面かぶり厚さCb、db：梁主筋呼び名の値

【記号】

e:絞り寸法、Dg:梁せい
ℓao:必要定着長さ、ℓaoの適否判定上限値:25db
Dc1:下階柱せい、Dc2:上階柱せい
db:梁主筋または柱主筋呼び名の値

(注) 梁上端筋飲み込み部:かんざし筋配置



【e＞Dg/6の柱主筋曲げ通しト形接合部①-2】

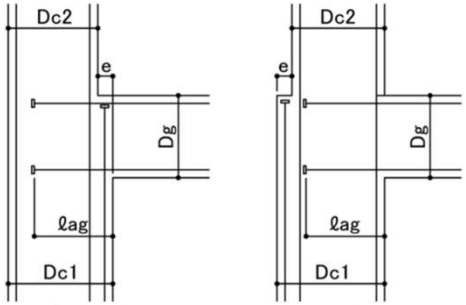
①-2 e＞Dg/6の柱絞りト形接合部配筋仕様

e＞Dg/6の柱絞りト形接合部の場合、梁上端筋飲み込み部には、梁あばら筋と同径で、1組の本数が同本数かつ間隔が100mm以下のSD295～SD390のかんざし筋を配置する(④ 参照)。

②

13.2節(2) 柱主筋を曲げ通し筋としない柱絞り接合部の梁主筋定着長さ

(注) 柱内面合せト形接合部の場合、下階柱主筋定着部に定着部拘束筋を配置する(⑥参照)。



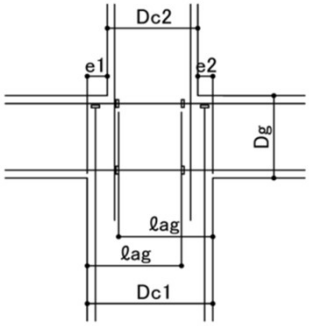
(柱外面合せ)　(柱内面合せ)

【柱主筋を曲げ通し筋としない柱絞りト形接合部②-1】

② 柱絞り接合部の梁主筋定着長さ

1) 柱主筋を曲げ通し筋としない柱絞りト形接合部の場合、柱外面合せ、内面合せともに、下階柱側梁端仕口面を上下梁主筋定着起点とし、SABTEC指針8.1節(1)より、梁主筋定着長さℓag≧max(ℓao、12db、3Dc1/4)とし、引張軸力を受けるト形接合部の場合、梁主筋定着長さℓag≧max(ℓao、15db、3Dc1/4)とする。

2) 柱絞り十字形接合部の場合、下階柱側梁端仕口面を上下梁主筋定着起点とし、SABTEC指針8.1節(1)より、梁主筋定着長さℓag≧max(ℓao、12db、3Dc1/4)とする。



【柱主筋を曲げ通し筋としない柱絞り十字形接合部②-2】

①、②の共通仕様

1) 梁主筋定着長さℓagはSABTEC指針8.1節、下階柱主筋定着長さℓacはSABTEC指針8.2節による。

2) 接合部横補強筋寸法は下階柱横補強筋寸法と同じとした場合、接合部有効せいDjhは、下階柱せいDc1としてもよい。

3) 梁上端筋飲み込み部には、梁あばら筋と同径で、1組の本数が同本数、かつ、間隔100mm以下のSD295～SD390のかんざし筋を配置する。

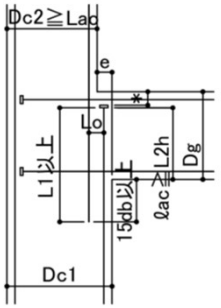
(注) 1) 13.2節の柱絞り接合部の場合、上階柱せいDc2≧解表13.1の上階柱最小せいLaoとする。
　2) ピロティ柱梁接合部の場合、技術基準解説書 付録1-6「ピロティ形式の建築物に対する耐震設計上の留意点」で柱主筋定着部に関連する制限柱軸力を満足しなければならない。

③

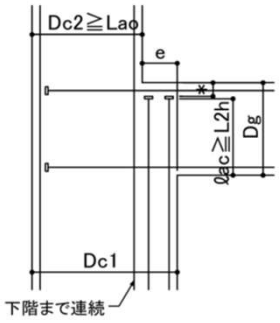
13.2節(3)3)柱主筋を曲げ通し筋としない柱絞り接合部の柱主筋定着仕様

（注） 1)絞り寸法e≦Dg/6かつ150mm以下の場合、柱主筋定着部はあき重ね継手とすることができる。
（あき重ね間隔）Lo=0.2L1かつ150mm以下、ただし、D32以下、L1：RC配筋指針の直線重ね継手長さ
2) 下階柱主筋定着長さ： ℓac=max(ℓao, 16db, 3Dg/4)（SABTEC指針8.2節）
3) L2,L2h：RC配筋指針の直線定着長さおよびフック付き定着長さ

＊：設計かぶり厚さ

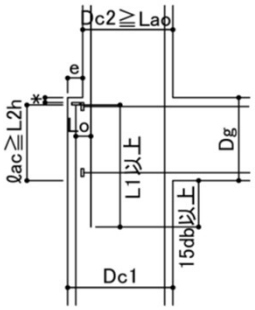


（あき重ね継手）

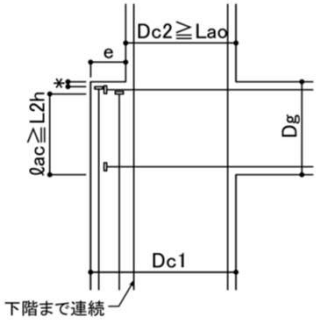


（あき重ね継手なし）

（柱外面合せ）



（あき重ね継手）



（あき重ね継手なし）

（柱内面合せ）

【柱主筋を曲げ通し筋としない柱絞り接合部の柱主筋定着仕様③】

③柱主筋定着仕様

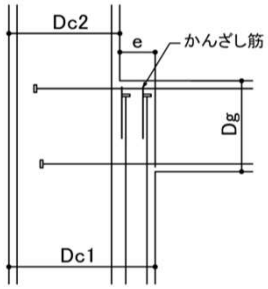
(1) 下階柱主筋定着部
(柱内面合せの場合)
1) 下階柱主筋定着部位置：梁上端筋下部
2) 外面側最外縁柱主筋定着金物はRC配筋指針の設計かぶり厚さを確保し、外面側最外縁柱主筋定着長さ(ℓac)を最大限長くする。

(柱外面合せの場合)
柱絞り上面側の最外縁柱主筋定着部のかぶり厚さ：RC配筋指針の設計かぶり厚さ

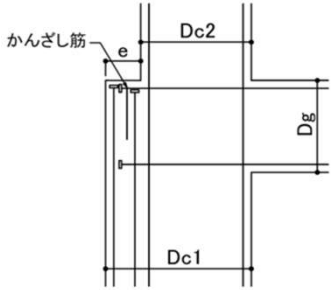
(2) 柱内面合せト形接合部の定着部拘束筋
SABTEC指針14.2節の詳細図14.1(d)に準じ、下階柱主筋定着部のうち隅筋以外の全柱主筋定着部に、屋外側からかんざし筋挿入方式定着部拘束筋を配置(⑥参照)。

④

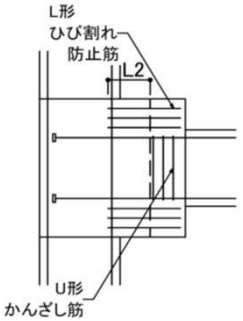
13.2節(3)1)柱絞り接合部のかんざし筋仕様



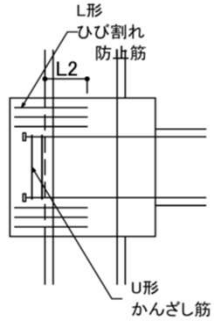
（柱外面合せ）



（柱内面合せ）



（柱外面合せ）



（柱内面合せ）

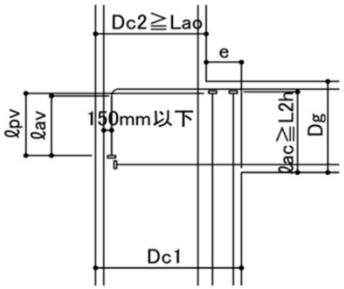
（平面配筋詳細）

【柱絞り接合部のかんざし筋仕様④】

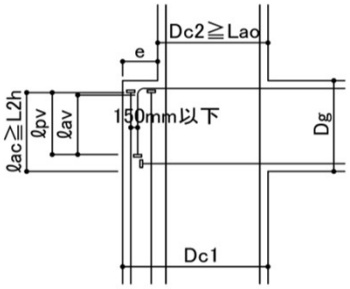
④かんざし筋仕様
柱絞り部の梁上端には、梁あばら筋と1組の本数が同本数、かつ、@100mm以下のSD295～SD390のU形かんざし筋を配置する。
ただし、梁上部に隣接する柱上部には、D13@100mm程度のL形ひび割れ防止筋を配置する。

⑤

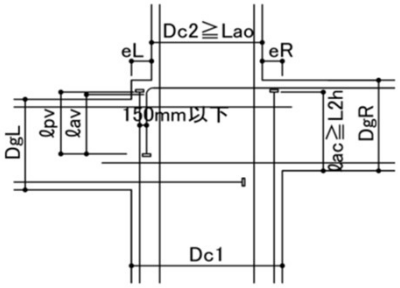
8.3節(1)による梁上端筋曲げ下げ定着



（柱外面合せト形接合部）



（柱内面合せト形接合部）



（鉛直段差梁付き十字形接合部）

【梁上端筋曲げ下げ定着⑤】

⑤ 梁上端筋曲げ下げ定着仕様

SABTEC指針8.3節のL形接合部での梁上端筋曲げ下げ定着の余長タイプAと余長タイプBは、ピロティ柱梁接合部に適用できる。

この場合、梁上端1段筋折り曲げ部からの定着力が出隅(引張)側柱主筋に伝達されるように、梁上端1段筋折り曲げ余長部と柱主筋定着部側面あき寸法C_{gc}は150mm以下とする。

(余長タイプA)

余長部折曲げ終点からの定着長さℓ_{av}：JASS 5の直線定着長さL_2以上

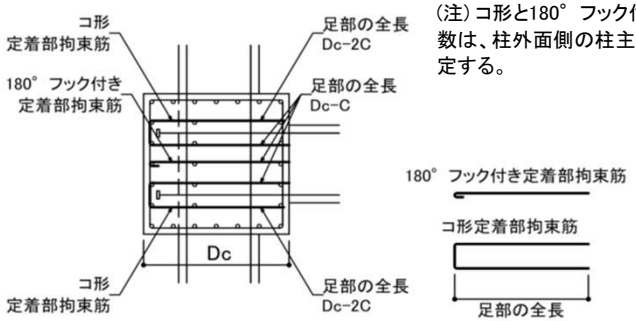
(余長タイプB)

余長部折曲げ終点からの定着長さℓ_{av}：10d_b以上

梁上端筋余長部と柱主筋との重ね長さℓ_{pv}：12d_b以上

⑥

13.2節(2)柱主筋を曲げ通し筋としない柱内面合せ柱絞りト形接合部の柱主筋定着部拘束筋



(注) コ形と180° フック付き定着部拘束筋の箇所数は、柱外面側の柱主筋の本数と間隔に応じて選定する。

【屋外側からのかんざし筋挿入方式定着部拘束筋⑥】

⑥柱内面合せト形接合部の柱主筋定着部拘束筋仕様

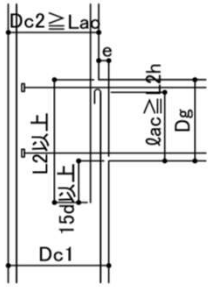
柱内面合せト形接合部の場合、SABTEC指針14.2節の詳細図14.1(d)に準じ、屋外側からのかんざし筋挿入方式定着部拘束筋で、下階柱主筋定着部のうち隅筋以外の全柱主筋定着部を拘束する。

「定着部拘束筋足部の全長」

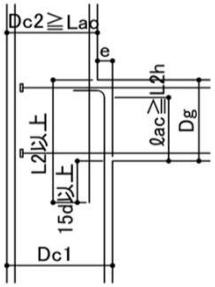
(梁部あばら筋内の場合) D_c−C

(梁部あばら筋外の場合) Dc−2C、Dc：下階柱せい、C：設計かぶり厚さ

⑦ 柱主筋フック付き定着の場合



RC配筋指針 9.3柱
a.柱筋(2)接合部(一般階)(b)
参照



(一社)日本建設業連合会・
(一社)日本建築構造技術者協会
鉄筋コンクリート造配筋標準図
共同作成WG
参照

(注) 柱主筋フック付き定着の場合、柱主筋フック部と隣接する柱主筋が干渉しないことを確認する。特に、90° フック付き定着の場合、隣接する柱主筋が干渉する恐れがあるので、注意する。